

令和3年度

学校法人爽青会

専門学校ルネサンス・ペット・アカデミー

【自己点検・評価および学校関係者評価報告書】

令和4年3月

学校法人爽青会

専門学校ルネサンス・ペット・アカデミー

自己点検・評価委員会／学校関係者評価委員会

自己点検・自己評価委員会 委員名簿

1. 学校長 中野勘次郎（委員長）
2. 本部長 中野祐子
3. 教 頭 藤原研一
4. 教務部 村瀬晋司
5. 教務部 早房陽
6. 教務部 北風孝広
7. 教務部 堀内貴充
8. 事務局 鈴木博昭

監査委員

1. 中野良太（学校法人爽青会 理事長代理）
2. 前田健一（ルネサンス デザイン・美容専門学校教務部長）

学校関係者評価委員会 委員名簿

1. 鳥居春仁（元静岡県立浜松北高等学校校長）
2. 上野弘道（公益社団法人日本動物病院協会 専務理事／日本動物医療センター院長）
3. 坂元祥彦（一般財団法人 動物看護師統一認定機構 理事）
4. 平井伸幸（株式会社レボル代表取締役社長）
5. 望月 智（株式会社ジェットスタジオ取締役）

自己点検・評価表 (ISO 29993 Ver1.3)

実施日: 2022年1月19日

学校名: 専門学校ルネサンス・ペット・アカデミー

改定①: 2022年1月21日

改定②: 2022年1月25日

1. 学校の教育目標

日本人の徳性を活かし、人への配慮を最優先し、自然や動物と共に生きる社会づくりを世界に発信する

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

行動指針: 想像し、言語化しよう
 教職員目標: よく観察し、正しく理解し、適切に表現する
 <<RAP>>
 ・競合校に打勝ち、少子化に対応する学生募集具体策
 ・教育力の先進性を示す新カリキュラムの導入
 ・新入生が躓かないための退学抑止策
 ・RAPファン層の早期発掘
 ・動物看護師の国家資格化準備

3. 評価項目の達成及び取組状況

ストロングポイント・・・④、適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

1 教育理念・目標		自己点検	学校関係者 平均
1	1 理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	4
1	2 学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか	4	4
1	3 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか(コース修了後に、学習者がそのコンピテンスのレベルを必要とする目的や状況が明確にされているか)	4	4
1	4 学校における職業教育の特色は明確になっているか	④	4
1	5 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	4

① 課題

変化の大きい動物業界において、愛玩動物看護師の国家資格化等、業界の変化をとらえ、迅速に変容していくことが求められる。

② 今後の改善方策

コロナ禍の状況に合わせて、情報を受発信できる機会(セミナー、研究会、企業訪問等)を増やす。

③ 特記事項

教育理念や目的、育成人材像を学生に周知する授業「ルネサンス・メソッド」をカリキュラムに取り入れ、目指すべき姿や方向性を全学生に指導している。また、職業教育の特色を示す資料として、開校以来毎年「就職内定速報」を作成している。教育成果の集大成である就職について、毎年の実績を公開している。

2 学校運営		自己点検	学校関係者 平均
2	1 専修学校設置基準及び職業実践専門課程の認定要件に沿った適切な運営がなされているか	4	4
2	2 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	4
2	3 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	4
2	4 目的等に沿った事業計画が策定されているか	4	4
2	5 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	4
2	6 人事、給与に関する制度は整備されているか	4	4
2	7 専任教員は適正に配置されているか(専任教員や非常勤講師の過当たりの担当コマ数などの講義・実習負担は妥当であるか)	4	4
2	8 教育内容の改善を図るため、教職員と非常勤講師等との定期的な情報交換を行っているか	4	4
2	9 業界や地域社会等からの意見の収集・分析・応答の仕組ができていないか(苦情及び要請への対応を含む)	4	4
2	10 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	4
2	11 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	4
2	12 教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施しているか(モニタリング及び評価の結果を考慮して、学習サービスの改善・変更を実施しているか)	④	4
2	13 学生や保護者、その他利害関係者からの苦情・要請等への対応など、不適合を特定し、対処する手順(予防処置及び是正処置)を確立しているか	4	4
2	14 学生及び保護者等が不満を抱いている場合や、学校側と意見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか	4	4

① 課題

急な休校やオンライン化の際、必要な情報を非常勤講師に伝えるための伝達手段が未整備である。

② 今後の改善方策

非常勤講師への緊急連絡網の整備を進める。

③ 特記事項

毎月実施されるMCM(経営会議)や月次反省会議にて、発生した課題の対応策を即決定し、柔軟に実践する仕組みがある。コロナ禍においても、安全面を十分検討の上で、柔軟な対応を決定・実施した結果、年初に計画した学習機会はほぼ確保した。

3 教育活動		自己点検	学校関係者 平均
3	1 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	4
3	2 学習参加の前提としているスキルや要件などに不足がないかを確認するためのアンケートやヒアリングを行っているか	④	4
3	3 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	4
3	4 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	4
3	5 少なくとも年1回、カリキュラム、学習教材及びアセスメント教材の見直しを行っているか	4	4
3	6 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか(発行する修了証明書の種類及び内容)	4	4
3	7 講義および実習に関するシラバスは作成されているか(学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか)	4	4
3	8 シラバス(作成されていればコマシラバス)には到達目標が記載されているか(Can-Doを意識した到達目標の明示)	4	4
3	9 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられ、その内容、評価法などが事前に決められているか	4	4
3	10 学習サービスの設計時に、予定しているモニタリング及び評価の手順を明確にしているか	4	4
3	11 シラバスあるいは講義要項(作成されていればコマシラバス)などが事前に学生に配布され、授業で有効活用されているか(あるいはホームページなどで公開されているか)	4	4
3	12 実技・実習が講義と連動していたり、講師と学習者の比率をカリキュラム設計時に考慮するなど、効果的学習に配慮されているか	4	4
3	13 カリキュラムの作成・見直し等に関し、定期的に外部者(企業・団体、学会・協会、関連する業界団体等)の評価や意見を取り入れているか(ニーズ分析の結果を利害関係者間で共有しているか)	④	4
3	14 実技・実習に先立って、職業倫理や情報の取扱いに関する規程・マニュアルや規則が整備され、公表されているか	4	4
3	15 学生や保護者に対し、成績評価・単位認定の基準、進級要件、卒業要件はきちんと提示されているか	4	4
3	16 職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか(スポンサーの学習サービスに対する満足度の分析、並びにスポンサーからの学習サービスの質向上に関するフィードバック及び提案の分析を含む)	4	4
3	17 アセスメントの結果は、公平性、透明性及び守秘義務の原則に鑑みて、確立された権限又は正当な承諾を得た者のみ閲覧可能とされているか(閲覧制限)	4	4
3	18 カリキュラム設計及び開発の経験を有している、もしくは訓練を受けたファシリテーターなどが、カリキュラムの設計及び開発を担当しているか	4	4
3	19 学習教材は、学習内容の実際の有用性を考慮した実践的かつ最新のものであり、社会的ニーズ、文化的ニーズ及び学習者の背景を考慮して選択されているか	4	4
3	20 カリキュラムを設計又は見直す際に、過去に提供した類似の学習サービスに関する評価の結果を考慮しているか	4	4
3	21 学内で使用又は開発した学習リソース(資源)の出典及び著作権について、適正に処理できているか	4	4

① 課題

新型コロナウイルスの影響を受けている動物園・水族館を中心に、実習先・就職先の精査と新規開拓が必要。

② 今後の改善方策

教育運営計画に落とし込み、担当者を決めて計画的に開拓を進めていく。

③ 特記事項

昨年の経験を活かし、コロナ禍における対面型とオンラインの良さをうまく取り入れたハイブリッド授業を計画。直接動物に触れる実習時間を確保しつつ、ニューヨークやプリズベンとつないだオンライン授業を計画的に取り入れた。

教育課程編成委員会の意見を参考に、ドッグ・ウェルネス科では開校以来初となる犬同伴での国内研修を那須高原にて実施した。学生からは「改めて動物業界は接客業であると実感した」という職業観の変化と、「飼い主として犬との旅行に必要な準備と注意点を自覚した」という飼い主目線での意見があるなど、犬の専門家として就職する学生にとって、普段の研修とは違う発見があった。

4 学修成果		自己点検	学校関係者平均
4	1 学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか(測定する知識、スキル及び能力、測定の基準、アセスメントの方法は明確か)	4	4
4	2 就職率の向上が図られているか(卒業生の就職率)	④	4
4	3 目標とする資格試験等への合格率はどうか	4	4
4	4 退学率の低減が図られているか(受講登録、出欠状況及び学習者の減少に関する分析が行われているか)	④	4
4	5 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか(卒業生の就職後の動向を出来るだけ把握し、卒業後にも就職その他の支援を行っているか)	4	4
4	6 学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか	4	4
4	7 要請があった場合には、学習者又はスポンサーに対して、a) 学習サービスの名称及び目的やb) 指導時間数、c) 達成度などの情報を含む修了証明書を提供しているか	4	4
4	8 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	4
4	9 コースの開始前又は開始時に、学習する内容に関して学習者が有するコンピテンスのレベルについて、アセスメントを行っているか	4	4
4	10 コース全体を通して、及びコースの修了時に、学習者の習熟状況をアセスメントしているか	4	4

① 課題

卒業生の動向を可能な限り把握するよう務めているが、網羅しているとは言えない。

② 今後の改善方策

動物看護師科以外の学科についても一斉送付のアンケートを実施し、現状把握に努める。

③ 特記事項

就職率以上に就職の質を重視した就職指導を実施している。自活出来る就職を意識しており、平均初任給は過去5年間上昇を続けている。今年は昨年比3000増とさらに上昇している。
また、2021年度重点項目として掲げた退学抑止策は、学生の居場所の創出、常勤非常勤の情報共有の強化により退学者は1名のみ、退学率0.4%(一般的には10%前後)と功を奏している。

5 学生支援		自己点検	学校関係者 平均
5	1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか (またそれはきちんと学生や保護者に周知されているか)	4	4
5	2 学生相談に関する体制は整備されているか (相談窓口が設置されているか)	4	4
5	3 保護者と適切に連携しているか(保護者のニーズを把握しているか)	4	4
5	4 社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	4
5	5 卒業生への卒後教育等の支援体制はあるか	3	3.6
5	6 図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか	4	4
5	7 奨学金制度など、学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	4
5	8 学生の健康管理を担う組織体制はあるか(学生の健康診断を実施しているか、また健康相談窓口は整備されているか)	4	4
5	9 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	4
5	10 学生の生活環境への支援体制はあるか (学生のアパート探しなど、住環境への支援体制はあるか)	4	4
5	11 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	4
5	12 学習に関する要望、学習に関する要望を取り巻く状況及び通学の障害となる要因(距離や費用等)を理解し、解決に向けた提案を行っているか	④	4

① 課題

これまで特別講師による対面型の技術向上セミナーを実施してきたが、学内対面型のセミナーは講師の都合や参加者が限定的などの課題がある。

② 今後の改善方策

業務上の悩みの解消や卒業生同士の情報共有の場の提供など、オンラインを活用した新しい卒後支援の形を検討する。

③ 特記事項

授業アンケート、学生満足度調査をもとに、毎年改善すべきこととそうでないものを精査する体制が整っている。一部の担当者のみが把握しているのではなく、常勤・非常勤まで情報を共有し、関係者全体で改善に取り組んでいる。

6 教育環境		自己点検	学校関係者 平均
6	1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか(講義室は学生数、時間割にあわせ、無理なく配備されているか)	4	4
6	2 カリキュラム上必要となる実習に用いる教材・器材及びソフトウェア等を使用できる実習環境が整っているか。また必要な数の教材及びライセンスが準備されているか	4	4
6	3 教員・講師に対して、学習指導のための教育訓練や教材の利用についての訓練を実施しているか	4	4
6	4 教職員に対して、学習指導のための教育訓練や安全管理のための避難訓練を実施しているか	4	4
6	5 防災に対する体制は整備されているか	4	4
6	6 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	4

① 課題

特色のひとつである海外授業の見通しが立たない中、今年度に引き続き教育効果を高める代替研修の検討が必要。

② 今後の改善方策

教育課程編成委員会等の意見を活用しながら、どのような成果を上げることを目的とするかを明確にして、行き先と研修内容を検討する。

③ 特記事項

海外授業代替国内研修では、学生より「動物を飼うことへの責任、命と向き合う職業に就くことの覚悟を新たにしたい(看護)」、「一流トリマーは掃除と接客の意識が高く、改めて掃除と接客の重要性を思い知った(トリミング)」、「お客様満足度と動物福祉との兼ね合いを改めて考えさせられた(飼育)」などの感想があり、大切なことを多く吸収した研修となった。また、全学科において多くの研修がコロナで中止となる中で、実施出来たことに感謝したいというコメントも見られ、改めて研修実施の判断は間違っていないことを実感した。

7 学生の受入れ募集		自己点検	学校関係者 平均
7	1 学生募集活動は、適正に行われているか	④	4
7	2 履歴書(学歴、所有資格など)を適切に入手し、適切な管理を行っているか	4	4
7	3 学校案内等には選抜方法など、入学に必要な学力、スキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか	4	4
7	4 学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか	4	4
7	5 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか(評価手段及びその基準、修了時に発行される証明書等について説明しているか)	4	4
7	6 学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているか	4	4
7	7 教育の履行、人的・物的資源の提供、個人情報の取り扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか	4	4
7	8 学納金は妥当なものとなっているか	4	4
7	9 学校運営責任者の情報や、教員・講師の適格性・経験などの情報を提供しているか	4	4
7	10 学習者の満足度に関するフィードバックを入手する手順、並びに彼らの要求、提案及び苦情に対応する手順など、学校生活での支援体制について入学前に伝えているか	4	4
7	11 教授資格、教歴及び背景など、学習サービスを担当するファシリテーターのプロフィールについて、オープンキャンパスなどで紹介しているか	4	4
7	12 学習サービスの請求書は、明確、かつ学習者(又は適切な場合には経費支弁者)が何の代金を請求されているのか理解できるよう、必要な全ての詳細を含んでいるか	4	4
7	13 学習者又はスポンサーから要請があった場合には、支払の証明を提供しているか	4	4

① 課題

2024年度入学時の全国18歳人口が2022年度比で約6000人減少する。

② 今後の改善方策

2023年度生と2024年度生を意識した募集運営計画を策定し、事務局は2024年度を意識した募集活動を早期に展開する。

③ 特記事項

2022年度募集は、教育成果や最新情報を真摯に提供してきたこと、情報を求める高校生に対してSNSなどを活用してコミュニケーションが取れたこと、安全対策を徹底してオープンキャンパスを実施し続けたことが、大きな成果につながった。また、2023年度募集について、オープンキャンパス参加者数は昨年比175%と好調を維持している。

8 教育の内部質保証システム		自己点検	学校関係者 平均
8	1	学生によるアンケートなどで、適切に授業評価を実施しているか(定期的 に実施しているか)	4
8	2	評価の範囲、目標、根拠、基準、方法及びスケジュールを含む、モニタリング 及び評価の手段などを考慮し、モニタリング及び評価のプロセスを設計して いるか	4
8	3	適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか(学習ニーズの充足 や教育内容、カリキュラム、教材を評価しているか)	4
8	4	適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか(適格者によるモニタ リング及び評価を実施できているか)	4
8	5	教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状 況(学習環境等)を確認・検証しているか	4
8	6	学習サービスの提供に関わる教員・講師以外の職員は、自らの職務をやり 遂げるために必要なコンピテンス及び適格性を有しているか	4
8	7	全ての教員・講師に対して、当該学習分野又はスキル分野に関する必要な コンピテンスを有しているかを評価し、それらの評価結果を記録しているか	4
8	8	専門分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員・講 師の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか(研修等の効 果を評価し、文書により記録しているか)	4
8	9	教員・講師に対して、割り当てられた職務及び責任、学習サービスの評価結 果、本人の専門能力開発のニーズに対する見解を考慮に入れて、専門能力 開発の計画を作成しているか	3
8	10	職業関連分野における業界等との連携において優れた教員(専任・非常勤 含め)の提供先を確保するなどの取組が行われているか	4
8	11	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
8	12	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④
8	13	アセスメント結果のレビュー等が適切に行えるよう、文書管理規程や文書管 理リスト(ファイル管理簿)が整備されているか	4
8	14	自己点検・評価結果を公開しているか(報告では、学習サービスの目的を踏 まえ、明確に結論及び根拠を説明しているか)	④
8	15	代講が必要な場合、適格なファシリテーターが対応できるように手配し、当 該ファシリテーターに学習サービスの準備及び提供について指導しているか	4
8	16	ファシリテーター及び学習者に対して、印刷教材・電子教材の複写及び利用 に関する規則について情報提供しているか	4
8	17	教員・講師は、経験を有し、日本国内において認知されている教授資格を 持っている、又は認知されている講師養成訓練を受けているか	4
8	18	質保証を目的とした授業や学習の定期的な観察を実施しているか	4

① 課題

予算は確保されているものの、人材育成及び学校の新たな方向性や強化計画に基づいた人材育成計画が不完全である。

② 今後の改善方策

5年計画で教職員の段階別教育計画のモデルケースを策定する。
実施される研修会やセミナーが不確実なケースが多いので、研修名ではなく「研修内容」での計画をたて、それに合致した研修を実施していく。

③ 特記事項

国際規格ISO29993の審査と併せて、第三者評価を実施している。1月の定期審査において、授業アンケートによる学生のニーズ分析の結果を非常勤含めて迅速かつ正確に共有する仕組み、毎月行う経営会議や月次反省において、課題に対する策を即実行するネットワークの軽さは、行動の原点「Do it now by yourself」が学校全体に浸透しているとの評価をいただいた。自己点検を単なる確認作業とせず、強みや弱みを自分たちで再認識する機会として位置づけている。

9 財務		自己点検	学校関係者平均
9	1 財務について会計監査が適正に行われているか	4	4
9	2 財務情報公開の体制整備はできているか	4	4
9	3 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	4
9	4 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	4

① 課題

財務基盤が安定している一方、教員数を維持することが課題である。

② 今後の改善方策

人材難の時代。人材が流出してから採用活動するのではなく、計画的な採用活動を行う。新たな採用チャネルも模索する。(新卒採用、新たな求人媒体業者との契約など)
上記のため余裕を持った予算取りをする。

③ 特記事項

特になし。

10 社会貢献・地域貢献		自己点検	学校関係者平均
10	1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3.8
10	2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3.8
10	3 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	4

① 課題

特になし。

② 今後の改善方策

特になし。

③ 特記事項

小中学校との連携や小中学生への啓発活動は引き続き強化する。

11 国際交流(必要に応じて)		自己点検	学校関係者平均
11	1 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	—	—
11	2 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	—	—
11	3 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	—	—
11	4 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか(該当する場合には、広く知られている国内又は国際的(測定)尺度を参照しているか)	4	4

① 課題

海外授業の実施可否については引き続き模索する。

② 今後の改善方策

まずはコネクションがあり渡航受け入れに前向きなシンガポールへの渡航可否を検討し、徐々に他国へと広げる。

③ 特記事項

前年度の課題であった「海外授業代替国内研修」を4学科6クラスで実施できた。